

## 校倉(木製壁面緑化工法) (2008. 01北造協考案)

- 2008.06~2008.9 の期間、環境省洞爺湖ビジターセンターで展示した。
- 植栽された植物は北海道に自生する植物を垂直分布で紹介した。(向かって右側が海岸湿原の自生植物分布、左側は有珠山の自生植物分布)
- 使用した木材は北海道産カラマツ間伐材を防腐薬液注入処理したものを使用
- 灌水は自動灌水装置を設置



木製壁面緑化工法(写真は北海道洞爺湖サミット開催2日前 2008.07.05)



施行前の洞爺湖ビジターセンター全景



木製壁面緑化工法の完成



自動灌水装置



木製壁面緑化工法設置工事

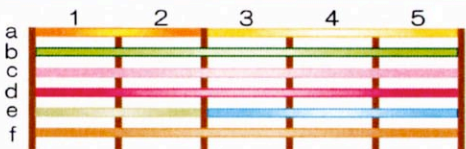
### 木製壁面緑化によるモデル展示①

この展示は夏の暑い日差しや熱を建物が直接受けないように工夫した木製壁面緑化です。

木枠は北海道産の間伐材を使用し、日本古来の建築文化様式の校倉(あぜくら)に習い製作しました。

展示終了後には、個々(例えばa-1)にプランターとして取り外しが出来ることから他の公共施設に移設することや、植物を移植するなど活用していく予定で、地球温暖化防止や3R(リデュース・リユース・リサイクル)を念頭に入れた展示となっています。

なお、植栽された植物は、支笏洞爺国立公園内に位置する有珠山の火山活動によって影響を受けた植生を表現したものです。2000年の噴火をはじめ100年間で4回の火山活動をしている有珠山周辺では、火山活動のたびに新たな火口が形成され、それまで地面を覆っていた植物が壊滅的な被害を受けるものの、年月の経過とともに再植生を回復してきています。



<植栽された有珠山周辺に自生する植生>

a	アキグミ (1943年：昭和新山)	シラカバ・ドロノキ (1910,1943年：四十三山など)
b	ヤマハハコ・ウンラン (1943年：小有珠、有珠新山、昭和新山)	
c	ミヤマハンノキ・イヌコリヤナギ (1978年：小有珠、有珠新山など)	
d	ヒメスゲ・オオイトドリ (1978年：小有珠、有珠新山、大有珠など)	
e	ヨシ (2000年：西山火口周辺)	オオヨモギ・アカザ・スキナ (2000年：西山火口周辺)
f	未植生 (噴火直後の火口周辺)	

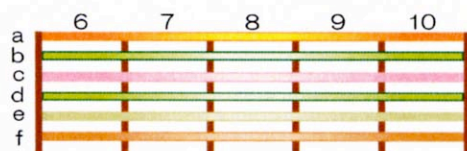
古い  
火山活動の影響時期  
新しい

有珠山の自生植物分布を紹介するパネル

### 木製壁面緑化によるモデル展示②

北海道には、多くの場所で失われてしまった海岸植生が比較的原始の姿で多く残されています。

この展示では、北海道の海岸植生ついて、下段から汀線・不安定帯・半安定帯・後背湿地・半安定帯・安定帯と内陸に向かう順で表現しています。



<植栽された北海道に自生する海岸植生>

a	安定帯：ハルニレ・ミスナラ・ダケカンバ	内陸
b	半安定帯：エソカワラナデシコ・ハマナス エソノカワラマツバ・ノコギリソウ	↑
c	後背湿地：ミスゴケ・エソカンソウ・イソツツジ サワギキョウ・ノハナショウブ	
d	半安定帯：エソカワラナデシコ・ハマナス エソノカワラマツバ・ノコギリソウ	
e	不安定帯：ハマヒルガオ・ウンラン・シロヨモギ ハマエンドウ・コウボウムギ コウボウシバ・ヒロハクサフジ	
f	汀線：オカヒジキ	

協力) 北海道造園緑化建設業協会

海岸湿原の自生植物分布を紹介するパネル